資料 2-2

[別紙] コンビナート施設調査(個々の施設データ) データ作成要領

地図の作成

貴事業所の任意の地図データ(構内平面図等)に以下の内容を記入して下さい。ただし、敷地全体が読み取れる地図のご利用をお願いします。

メールには前回調査(平成 25 年時点の施設情報)で提出いただいた地図データを同送しております。必要に応じて地図データを更新もしくは再作成ください。

(1) 事業所の敷地境界線

事業所の敷地境界線を、地図上に太い黒色で示して下さい。

(2) 施設配置と識別番号

調査対象施設の位置及び形状と識別番号を、下表に施設毎に指定した色でご記入下さい(防災設備については、識別番号は不要です)。

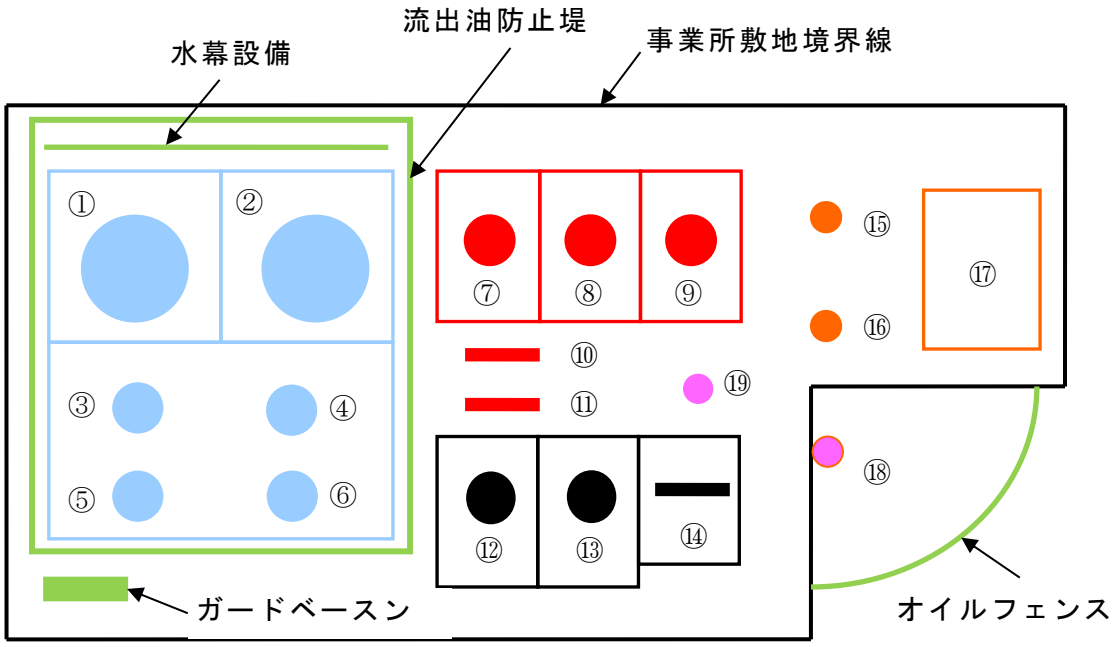
識別番号は、施設の種類にかかわらず、事業所内の通し番号(1, 2, 3, ‥‥)として下さい(次ページの記入例を参照)。必ずしも連番である必要はありませんが、重複しないように注意して下さい(施設データと 1 対 1 で対応していれば問題ありません)。

地図データの作成

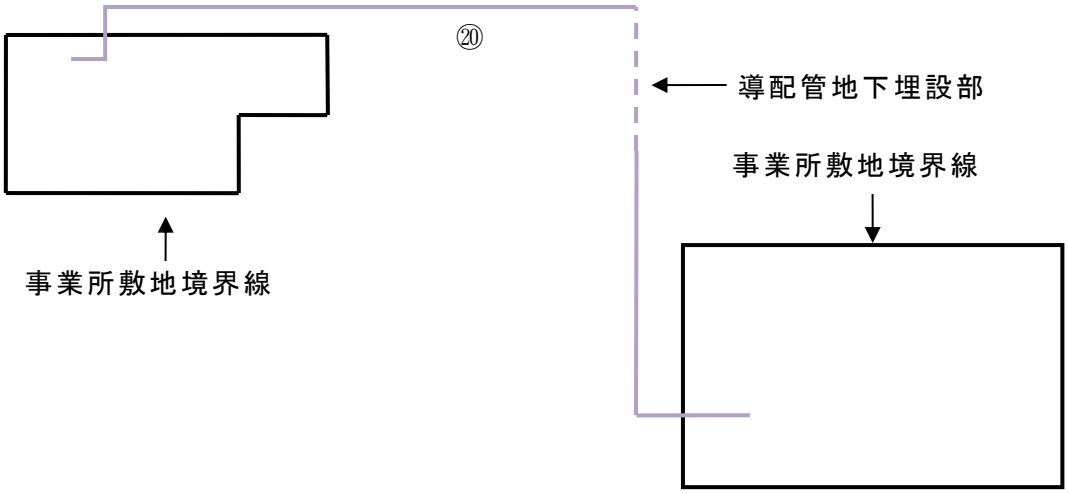
施設区分	色	記入内容
危険物タンク	青色	タンクを青色の円で示して下さい。 仕切堤･防油堤も青色の線で示して下さい。
ガスタンク	赤色	タンクを赤色の円(球形または円筒平底)または線(円筒横置)で示して下さい。 防液堤も赤色の線で示して下さい。
毒性液体タンク	黒色	タンクを黒色の円(円筒平底)または線(円筒横置)で示して下さい。 防液堤も黒色の線で示して下さい。
プラント	オレンジ色	代表的な塔槽類[注 1)]の位置を、オレンジ色の●で示して下さい。代表的な塔槽類の位置が示せない場合、プラントの敷地をオレンジ色の枠で示して下さい。
タンカー桟橋	ピンク色	施設の位置を、ピンク色の●で示して下さい。
導配管[注 2)]	紫色	事業所間を結ぶ地上配管を、紫色の線で示して下さい。地下埋設部分は点線で示して下さい。
陸上入出荷施設	ピンク色	施設の位置を、ピンク色の●で示して下さい。
防災設備	緑色	オイルフェンス(展張時の位置)、ガードベースン、流出油防止堤、水幕設備の位置・形状を緑色の線・枠で示して下さい(識別番号は不要ですが、設備の種類が分かるようにして下さい)。

注 1) プラントの代表的な塔槽類とは、当該施設(危険物製造所、高圧ガス製造設備等)の中で、危険物や高圧ガスが最大に滞留するユニット(1 ヶ所)とします。

注 2) 導配管については、始点・終点を含めた全体を読み取れるようにして下さい。地図は、必要に応じて導配管用に別途用意して下さい。



①～⑥：危険物タンク
⑦～⑨：高圧ガスタンク（球形または円筒平底タンク）
⑩～⑪：高圧ガスタンク（円筒横置タンク）
⑫～⑬：毒性液体タンク（円筒平底タンク）
⑭　　：毒性液体タンク（円筒横置きタンク）
⑮～⑯：プラント（代表的な塔槽類）
⑰　　：プラント（敷地（代表的な塔槽類の位置が示せない場合））
⑱　　：タンカー桟橋
⑲　　：陸上入出荷施設



⑳：導配管

地図の記入例

施設データ様式の記入

地図に示したコンビナート施設の諸元等について、施設の種類ごとに該当する様式に記入してください。

(1)-1 危険物屋外タンク【様式１（１）】

対象施設：
①第 4 類危険物を貯蔵した容量 500kl 以上の屋外タンク貯蔵所
②毒性危険物（下表１に該当するもの）を貯蔵した全ての屋外貯蔵タンク
※容量 500kl 未満のタンクは様式 1(2)が該当します。

ア. 地図上の識別番号

地図に記入した識別番号(1, 2, 3, ・・・・の通番)

イ. 固有の施設記号

事業所で固有の施設記号(例えば T-001 など)があれば記入してください。

ウ. 稼働状況

施設の稼働状況について該当する番号をご記入下さい。なお、本様式は休止中の施設についても記入して下さい（貯蔵物質等は許可申請時のものとして下さい)。また、建設中の施設についても可能な範囲で記入して下さい。

○稼働中　：1
○休止中　：2
○建設中　：3
○その他（具体的にご記入下さい）　：4

エ. 貯蔵物質(物質名、類別、内容物の実液比重、毒物･劇物)

貯蔵物質の名称と消防法上の類別(例：第 4 類･第 1 石油類)及び現在貯蔵されている危険物の実液比重を記入してください（実液比重に幅がある場合、最小値及び最大値をご記入下さい。前回調査時の回答は最小値欄に記載してありますので必要に応じて適宜修正ください)。名称は略称を避け、できるだけ一般名を用いてください。

また、表１の毒性物質について、下記の該当する番号をご記入下さい。

○毒物･劇物に該当する：1　　○毒物･劇物に該当しない：2

さらに、禁水性物質、水溶性物質についても同様に番号をご記入下さい。

○禁水性物質に該当する：1　　○禁水性物質に該当しない：2
○水溶性物質に該当する：1　　○水溶性物質に該当しない：2

禁水性物質とは、石災法施行令第３条第１項第６号に規定されるもので、次の例によるもの。消防法別表第１備考８に規定される禁水性物質（表 2）。

水溶性物質とは、危政令別表第３　備考１０に規定されるもので、1 気圧におい

て、温度 20℃で同容量の純水と緩やかにかき混ぜた場合に、流動がおさまった後も当該混合液が均一な外観を維持するものであることをいいます（例：表 3）。

表 1 毒性物質

石油コンビナート等災害防止法で指定された毒物･劇物	毒物	四アルキル鉛、シアン化水素、フッ化水素
	劇物	アクリロニトリル、アクロレイン、アセトンシアンヒドリン、液体アンモニア、エチレンクロルヒドリン、塩素、クロルスルホン酸、硅フッ化水素酸、臭素、発煙硝酸、発煙硫酸
その他の毒性物質		硫化水素、硫黄

表２　禁水性物質

一　カリウム
二　ナトリウム
三　アルキルアルミニウム
四　アルキルリチウム
五　黄りん
六　アルカリ金属（カリウム及びナトリウムを除く。）及びアルカリ土類金属
七　有機金属化合物（アルキルアルミニウム及びアルキルリチウムを除く。）
八　金属の水素化物
九　金属のりん化物
十　カルシウム又はアルミニウムの炭化物
十一　その他のもので政令で定めるもの
十二　前各号に掲げるもののいずれかを含有するもの

表３　水溶性物質

第 1 石油類	アセトン、アセトニトリル、（t）ブチルアルコール、ピリジン、ジエチルアミン
第 2 石油類	アクリル酸、アリルアルコール、酢酸
第 3 石油類	エチレングリコール、グリセリン、メタクリル酸、酪酸

オ. 形　式

タンクの形式について該当する番号を記入してください。

○固定屋根式　：1

○浮き屋根式［シングルデッキ］　：2

○浮き屋根式 ［ダブルデッキ］　：3

○内部浮き蓋付き　：4

○その他（具体的にご記入下さい）　：5

カ. 浮き屋根式タンク

オ. 形式において、2 浮き屋根式 ［シングルデッキ］または 3. 浮き屋根式 ［ダブルデッキ］を選択した場合に回答してください。

浮き屋根耐震基準（平成 17 年総務省告示第 30 号）の適合状況について、該当する番号を記入してください。ダブルデッキの場合、3: 非該当を記入してください。

○適合　:1

○未適合 :2

○非該当 :3

ルーフドレン弁の有無、主駆動源、停電時(送電及び非常用を除く自家発電設備のいずれも停止したとき、以下同様)の操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　○設備あり :1
　　○設備なし :2

②主駆動源　○電　力 :1
　　○空　気 :2
　　○手　動 :3

③停電時操作性　○自動閉止（電力喪失時に自動閉止するもの）:1
　　○操作可能 :2
　　○操作不能 :3

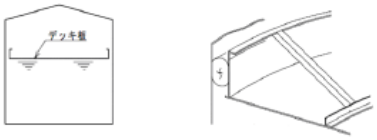
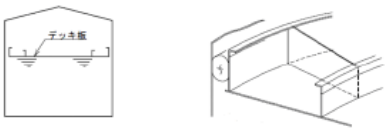
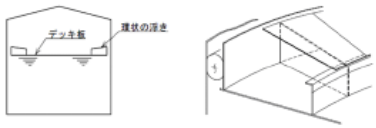
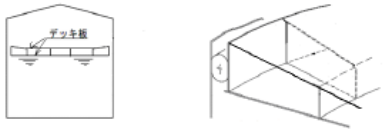
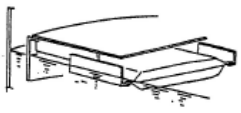
キ. 内部浮き蓋付きタンク

オ.形式において、4 内部浮き蓋式を選択した場合に回答してください。

内部浮き蓋の形式について、表４を参考に該当する番号を記入してください。

○パン型 :1
○バルクヘッド型 :2
○ポンツーン型 :3
○ダブルデッキ型 :4
○ハニカム型 :5
○簡易フロート型 :6

表４　内部浮き蓋の形式

①パン型：デッキ板とアウターリムからなるもの 	②パルクヘッド型：パン型にインナーリムと隔壁(パルクヘッド)が設けられているもの 
③ポンツーン型：デッキ板が１枚板構造で外周に浮き室が設けられているもの 	④ダブルデッキ型：デッキ板が２枚板構造のもの 
⑤簡易フロート型（タイプ１）：デッキ板が液と直接接触しないものであってパイプ状の浮き室のもの 	⑥簡易フロート型（タイプ２）：デッキ板が液と直接接触しないものであって枕状の浮き室のもの 
⑦ハニカム型：デッキ板が蜂の巣状パネルからなる浮き室をもつもの 	

ルーフベント等特別な通気口の設置の有無について、該当する番号を記入してください。

○設備あり　　：　1

○設備なし　　：　2

また、窒素ガスなどの不活性ガス封入による運用について、該当する番号をご記入下さい。

○不活性ガスの充填あり：1　　○不活性ガスの充填なし：2

内部浮き蓋の技術基準（平成 23 年総務省第 165 号）の適合状況について、該当する番号を記入してください。

○適合　　:1

○未適合　:2

○非該当　:3

ク．規　模（容量、直径（外径及び内径）、高さ、最大液面高さ）

①容量、直径（内径）、高さ、タンク基礎高さ

許可申請時の貯蔵最大数量[kl]、タンク直径（内径）[m]、タンク高さ[m]及びタンク基礎高さ[m]をご記入下さい。タンク直径は、幅がある場合、最大値をご記入下さい。

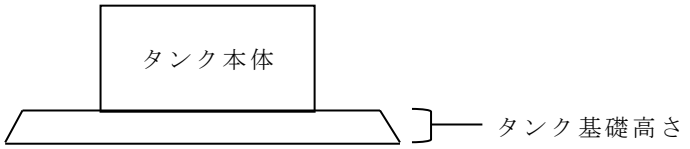


図２　タンク基礎高さのイメージ

②最高液面高さ（自主管理液面高さ）

自主管理液面高さ[m]を記入して下さい（地震による液面揺動の評価に用います)。なお､容量が 1,000kl 以上のタンクについては､タンク高さと最高液面高さの差が、消防法告示（危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示）に示される Hc を超えないことをご確認下さい（ク．規模について、全て消防届出値を入力頂ければ問題ないはずです)。

③自重[kN・kgf]

分かる範囲でご記入下さい。単位はどちらか一つを選択して下さい。

④平均貯蔵率[%]

年間におけるおおよそのタンク内の平均的な率を記入いただきたいのですが、平均が算定しにくい場合には、最も年間で多い状態の貯蔵率でも構いません。なお、下記に当てはまる場合には、その記号をご記入下さい。

○常時変動するため、平均貯蔵率が示せない　：A
○予備タンクのため、基本的に貯蔵率 0%　：B
○休止中タンクのため、貯蔵率 0%　：C
○休止中タンクであるが、水を●%貯蔵　：D（●%）

⑤最低貯蔵率[%]

運用上の最低貯蔵率[%]を記入してください。(津波によるタンクの滑動等の評価に用います)。休止中のタンクについて水を貯蔵し、津波等の対策としている場合は、水の貯蔵率　（水○%）を記入ください。特に設定していない場合は、「-」を記入ください。

ケ．仕切堤･防油堤(仕切堤面積、防油堤面積等)

仕切堤の有無、仕切堤及び防油堤面積、防油堤の漏洩防止措置の実施状況について、該当する番号または数値をご記入下さい。

①仕切堤

・仕切堤有無　　○仕切堤あり：1　　○仕切堤なし：2

・仕切堤面積[m^2]

仕切堤がある場合に、タンク部分も含めた面積[m^2]をご記入下さい。

注）仕切堤面積が不明の場合は、面積の欄は空欄としておいて下さい（地図にご記入いただいた仕切堤の形状から面積を算出します)。

②防油堤

・防油堤面積[m²]

防油堤のタンク部分も含めた面積[m²]をご記入下さい。

複数のタンクが１つの防油堤で囲まれている場合には、それぞれのタンクについて同じ防油堤面積（タンク部分も含めた全体の面積）をご記入下さい。

・防油堤の漏洩防止措置の実施状況

次の中から該当する番号をご記入下さい。

○漏洩防止措置済　　：1

○漏洩防止措置未　　：2

○該当なし（目地等なし）　　：3

注）　防油堤の漏洩防止措置とは、平成 10 年 3 月 20 日付け消防危 32 号「防油堤の漏洩防止措置等について」による目地等の強化措置を指します。

コ．地盤の液状化対策

地盤の液状化対策の有無について、該当する番号を記入して下さい。

○対策あり：1　　○対策なし：2　　○調査の結果、対策の必要なし：3

サ．接続配管(最大配管の呼び径、フランジボルト数)

タンクに接続されている配管のうち直径が最大のものについて次の項目をご記入下さい。

①　呼び径（A 表示・B 表示）

単位はどちらか一つを選択して下さい（前回調査時の回答がどちらか不明な場合は A 表示欄に記載してありますので、必要に応じて適宜修正ください）。

②フランジボルト数

タンク直近のフランジ１箇所についてご記入下さい。

フランジボルト数が不明の場合は、フランジ規格（JIS5k、JIS10k、JPI ｸﾗｽ 150 等）をご記入下さい。また、溶接配管の場合は「溶接」とご記入下さい。

シ．設置年

設置許可を受けた年(西暦)を記入してください。正確にわからない場合には年代程度でお示ししていただいても構いません。

ス．技術基準

「危険物の規制に関する政令」に定める技術上の基準について、次の中から該当する番号を記入してください。

○新法　　：1

○旧法･新基準　　：2

○旧法･旧基準　　：3

○準特定・新法　：4

○準特定･新基準　：5

○準特定･旧基準　：6

注)新法：昭和 52 年の技術基準(現行基準)に適合する特定タンク
旧法･新基準：平成６年の新基準に適合する旧法タンク(第 1 段階基準を含む)
旧法･旧基準：平成６年の旧法新基準に適合しないか適合調査中の旧法タンク
準特定・新法：平成 11 年の技術基準(現行基準)に適合する準特定タンク
準特定･新基準：平成 11 年の新基準に適合する準特定タンク
準特定･旧基準：平成 11 年の新基準に適合しないか適合調査中の準特定タンク

セ. 遮断設備(設備有無、主駆動源、停電時操作性)

遠隔による開閉操作が可能な受払弁または緊急遮断弁の有無、主駆動源、停電時(送電及び非常用を除く自家発電設備のいずれも停止したとき、以下同様)の操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②主駆動源　○電　力　：1
　　○空　気　：2
　　○その他（具体的にご記入下さい。）　：3

③停電時操作性　○自動閉止（電力喪失時に自動閉止するもの）：1
　　○操作可能　：2
　　○操作不能　：3

ソ. 固定泡消火設備(設備有無、停電時操作性)

設備有無、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②設備種類

固定式消火設備がある場合にのみご記入下さい。設備がない場合は空欄のままにして下さい。

○固定式泡消火設備　：1
○水蒸気消火設備　：2
○水噴霧消火設備　：3
○その他（具体的にご記入下さい）　：4

③停電時操作性　○操作可能　：1
　　○操作不能　：2

タ．移送設備(設備有無、停電時操作性)

緊急時に内容物を他のタンクに移送するための設備（様式は問いません）の有無、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②停電時操作性　○操作可能　：1
　　○操作不能　：2

チ．【毒性危険物の場合のみご回答ください】蒸発・拡散防止設備(設備有無、設備種類、停電時操作性)

漏洩時に毒性ガスを除害(または拡散を防止)するための設備の有無、種類、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②設備種類　　○吸引除害　：1
　　○散水希釈　：2
　　○その他（具体的にご記入下さい）　：3

③停電時操作性　○操作可能　：1
　　○操作不能　：2

ツ．（任意入力）緯度・経度

施設の位置について、以下の方法に従ってご入力下さい。入力が困難な場合は、空欄でも構いません。

・Google maps（https://www.google.co.jp/maps/）にアクセス
・設備の位置にマウスカーソルを合わせて右クリックすると、その場所の緯度経度が表示されるので、数字を左クリック
・「クリップボードにコピーしました」の表示が現れるので、エクセルにそのまま貼り付け

(1)-2 危険物屋外タンク（500kl 未満）【様式１（２）】

対象施設：
第 4 類危険物を貯蔵した容量 500kl 未満の屋外タンク貯蔵所及び地下タンク貯蔵所
※地図の記入は不要です。

ア. 施設数

調査票に記載されたタンクの形式別・貯蔵物質別に総施設数のみをご記入ください。

(2)高圧ガスタンク(様式 2)

対象施設：

①可燃性ガスを貯蔵したすべてのタンク（高圧ガス保安法に係る貯槽、電気事業法及びガス事業法に係る貯槽またはガスホルダー）

②表 1 に該当する毒性ガスを貯蔵したすべてのタンク

表 1（再掲）　評価対象とする毒性物質

石油コンビナート等災害防止法で指定された毒物･劇物	毒物	四アルキル鉛、シアン化水素、フッ化水素
	劇物	アクリロニトリル、アクロレイン、アセトンシアンヒドリン、液体アンモニア、エチレンクロルヒドリン、塩素、クロルスルホン酸、硅フッ化水素酸、臭素、発煙硝酸、発煙硫酸
その他の毒性物質		硫化水素、硫黄

ア. 地図上の識別番号

地図に記入した識別番号（1,2,3,‥‥の通番）をご記入下さい。

イ. 固有の施設記号

事業所で固有の施設記号(例えば T-001 など)があれば記入してください。

ウ. 稼働状況

施設の稼働状況について該当する番号をご記入下さい。なお、本様式は休止中の施設についても記入して下さい(貯蔵物質等は許可申請時のものとして下さい)。また、建設中の施設についても可能な範囲で記入して下さい。

○稼働中　：1
○休止中　：2
○建設中　：3
○その他（具体的にご記入下さい）　：4

エ. 貯蔵物質(物質名、種別)

貯蔵物質の名称を記入してください。名称は略称を避け、できるだけ一般名を用いてください。また、高圧ガス保安法の規定等に基づく「可燃性ガス」、「毒性ガス」の種別について、次の中から該当する番号をご記入下さい。

○可燃性　：1
○毒性（表 1）　：2
○可燃性･毒性（表 1）　：3

オ. 形　式

地上タンク/地下タンクについて該当する番号をご記入下さい。

○地上タンク：1　　○地下タンク：2

タンクの形式について、次の中から該当する番号を記入してください。

○球形タンク　　：1
○円筒平底タンク　　：2
○円筒横置タンク（枕型含む）：3
○その他　　：4

カ．規　模

タンクの規模について、形式ごとに次の内容を記入してください。また、最大液面高さ[m]及びタンク容積[m^3]もご記入下さい。

○球形タンク　　：貯蔵量[t]、直径[m]
○円筒平底タンク：貯蔵量[t]、直径[m]
○円筒横置タンク：貯蔵量[t]

キ．地盤の液状化対策

地盤の液状化対策の有無について、該当する番号を記入して下さい。

○対策あり：1　　○対策なし：2　　○調査の結果、対策の必要なし：3

ク．防液堤

防液堤の設置状況について、該当する番号を記入して下さい。

○防液堤あり：1　　○防液堤なし：2

防液堤を設置している場合は、タンク部分も含めた面積[m^2]を記入して下さい。複数のタンクが１つの防液堤で囲まれている場合には、それぞれのタンクについて同じ値（防液堤全体の面積）をご記入下さい。

注）防液堤面積が不明の場合は、面積の欄は空欄としておいて下さい（地図にご記入いただいた防液堤の形状から面積を算出します）。

ケ．貯蔵状態(温度、圧力、状態)

貯蔵温度[℃]、貯蔵圧力[ゲージ圧：MPa]を記入してください。状態については以下の該当する番号を記入してください。

○液　体　：1
○気　体　：2

コ．接続配管(最大配管の呼び径、フランジボルト数)

タンクに接続されている配管のうち直径が最大のものについて次の項目をご記入下さい。

① 呼び径（A 表示・B 表示）

単位はどちらか一つを選択して下さい（前回調査時の回答がどちらか不明な場

合はA表示欄に記載してありますので、必要に応じて適宜修正ください)。

②フランジボルト数

タンク直近のフランジ1箇所についてご記入下さい。

フランジボルト数が不明の場合は、フランジ規格（JIS5k、JIS10k、JPI ｸﾗｽ150等）をご記入下さい。また、溶接配管の場合は「溶接」とご記入下さい。

サ. 設置年

設置許可を受けた年(西暦)を記入してください。正確にわからない場合には年代程度でお示ししていただいても構いません。

シ. 耐震設計用重要度分類

当該タンクの耐震設計について、高圧ガス設備等の耐震性能を定める告示（平成30年経済産業省告示第220号）に基づいて設定している重要度分類を記入してください。(前回調査時の回答は当時の法令についての回答を記載してありますので必要に応じて適宜修正ください)

ス. 耐震措置（基準適合措置）の有無

神奈川県高圧ガス設備等耐震設計基準（令和元年改正版）への適合状況についてご記入ください。県の指導に従い改善している場合は、適合と記入ください。(前回調査時の回答は当時の基準への回答を記載してありますので必要に応じて適宜修正ください)

○適合　：1
○未適合：2

セ. 遮断設備(設備有無、操作方法、停電時操作性)

遠隔により開閉操作が可能な受払弁または緊急遮断弁の有無、主駆動源、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②主駆動源　○電　力　：1
　　○空　気　：2
　　○その他（具体的にご記入下さい）　：3

③停電時操作性　○自動閉止（電力喪失時に自動閉止するもの）：1
　　○操作可能　：2
　　○操作不能　：3

ソ. 移送設備(設備有無、停電時操作性)

緊急時に内容物を他のタンクに移送するための設備（様式は問いません）の有無、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　○設備あり　：1

○設備なし　：2

②停電時操作性　○操作可能　：1
○操作不能　：2

タ．蒸発・拡散防止設備(設備有無、設備種類、停電時操作性)

内容物が毒性ガスの場合、漏洩時に毒性を除害(または拡散を防止)するための設備の有無、種類、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　○設備あり　：1
○設備なし　：2

②設備種類　○吸引除害　：1
○散水希釈　：2
○その他（具体的にご記入下さい）　：3

③停電時操作性　○操作可能　：1
○操作不能　：2

チ．設置場所

内容物が毒性ガスの場合、設置場所について次の中から該当する番号を記入してください。

○屋　外　：1
○屋　内　：2

ツ．地盤の液状化判定について

当該タンクの立地している地盤の液状化判定について、次の中から該当する番号記入していください。

○液状化のおそれがある　：1
（当該貯槽周辺又は当該貯槽近傍では液状化判定していないが事業所内の一部では液状化するおそれがあると判定される場合を含む。）
○液状化のおそれはない　：2
○事業所内では液状化の判定をしたことがない：3

注）「地盤の液状化をおこすおそれのある地盤」とは、神奈川県高圧ガス施設等耐震設計基準中、4.1 液状化の判定（4.1.1 詳細判定又は 4.1.2 簡易判定(p.110、111)）に記載されている事項に該当する場合をいいます。

テ．地盤の流動のおそれのある地盤の判定について

ツの質問で１又は３と回答された場合のみ、次の質問にお答えください。

当該タンクの立地している地盤の「流動のおそれのある地盤」の判定について、次

の中から該当する番号を記入していください。

○流動のおそれがある：1

○流動のおそれはない：2

注）「地盤の流動をおこすおそれのある地盤」とは、神奈川県高圧ガス施設等耐震設計基準中、4.2 流動の検討(4.2.1 流動のおそれがある地盤の判定(p.113))の記載事項に該当する場合をいいます。

ト．タンクと当該タンク受入・払出配管の緊急遮断弁を超える第１固定点の基礎

テの質問で１と回答された場合のみ、次の質問にお答えください。

タンク基礎と当該タンクの受入又は払出配管に係る緊急遮断弁を超える第１固定点は、同一基礎上にあるか、否か、次の中から該当する番号を回答ください。

○同一基礎上ではない：1

○同一基礎上にある　：2

ナ．直近の護岸からの距離

テの質問で１と回答された場合のみ、当該タンクの中心点から、直近の護岸までの距離(m)を記入してください。

ニ．直近の護岸について

テの質問で１と回答された場合のみ、次の質問にお答えください。

ツの質問で、対象とした護岸(直近の護岸)は、耐震護岸であるか、否か、次の中から該当する番号を回答ください。

○耐震護岸である　：1

○耐震護岸ではない：2

○不明　　：3

注）耐震護岸は、港湾法における耐震強化岸壁のことを指します。耐震強化岸壁は、設計震度 0.25 以上で設計された高い耐震性を有する岸壁であるといわれています。

ヌ．（任意入力）緯度・経度

施設の位置について、以下の方法に従ってご入力下さい。入力が困難な場合は、空欄でも構いません。

・Google maps（https://www.google.co.jp/maps/）にアクセス

・設備の位置にマウスカーソルを合わせて右クリックすると、その場所の緯度経度が表示されるので、数字を左クリック

・「クリップボードにコピーしました」の表示が現れるので、エクセルにそのまま貼り付け

(3)毒性液体タンク(様式 3)

対象施設：
　表 1 に該当する毒性物質で、危険物、高圧ガスのいずれにも該当しない毒性液体を貯蔵したすべてのタンク（プラント内の貯槽、小容量の容器やボンベ等は除く）

表 1（再掲）　評価対象とする毒性物質

石油コンビナート等災害防止法で指定された毒物･劇物	毒物	四アルキル鉛、シアン化水素、フッ化水素
	劇物	アクリロニトリル、アクロレイン、アセトンシアンヒドリン、液体アンモニア、エチレンクロルヒドリン、塩素、クロルスルホン酸、硅フッ化水素酸、臭素、発煙硝酸、発煙硫酸
その他の毒性物質		硫化水素、硫黄

ア. 地図上の識別番号

地図に記入した識別番号（1,2,3,‥‥の通番）をご記入下さい。

イ. 固有の施設記号

事業所で固有の施設記号(例えば T-001 など)があれば記入してください。

ウ. 稼働状況

施設の稼働状況について該当する番号をご記入下さい。なお、本様式は休止中の施設についても記入して下さい(貯蔵物質等は許可申請時のものとして下さい)。また、建設中の施設についても可能な範囲で記入して下さい。

○稼働中　：1
○休止中　：2
○建設中　：3
○その他（具体的にご記入下さい）　：4

エ. 貯蔵物質名

貯蔵物質の名称を記入してください。名称は略称を避け、できるだけ一般名を用いてください。

オ. 形　式

タンクの形式について、次の中から該当する番号を記入してください。

○円筒平底タンク　：1
○円筒横置タンク（枕型含む）：2
○その他　：3

カ. 規　模(容量、最大液面高さ)

タンクの容量[kl]と最大液面高さ[m]を記入してください。

キ. 貯蔵状態(温度、圧力、水溶液濃度)

貯蔵温度[℃]、貯蔵圧力[ゲージ圧：MPa]を記入してください。水溶液として貯蔵している場合には濃度[重量%]も記入してください。

ク. 地盤の液状化対策

地盤の液状化対策の有無について、該当する番号を記入して下さい。

○対策あり：1　　○対策なし：2　　○調査の結果、対策の必要なし：3

ケ. 防液堤

防液堤の設置状況について、該当する番号を記入して下さい。

○防液堤あり：1　　○防液堤なし：2

防液堤を設置している場合は、タンク部分も含めた面積[m^2]をご記入下さい。複数のタンクが１つの防液堤で囲まれている場合には、それぞれのタンクについて同じ面積値（防液堤全体の面積）をご記入下さい。

コ. 接続配管(最大配管の呼び径、フランジボルト数)

タンクに接続されている配管のうち直径が最大のものについて、次の項目をご記入下さい。

① 呼び径（A 表示・B 表示）

単位はどちらか一つを選択して下さい（前回調査時の回答がどちらか不明な場合は A 表示欄に記載してありますので、必要に応じて適宜修正ください）。

②フランジボルト数

タンク直近のフランジ１箇所についてご記入下さい。

フランジボルト数が不明の場合は、フランジ規格（JIS5k、JIS10k、JPI ｸﾗｽ 150 等）をご記入下さい。また、溶接配管の場合は「溶接」とご記入下さい。

サ. 設置年

設置許可を受けた年(西暦)を記入してください。正確にわからない場合には年代程度でお示ししていただいても構いません。

シ. 遮断設備(設備有無、主駆動源、停電時操作性)

遠隔による開閉操作が可能な受払弁または緊急遮断弁の有無、主駆動源、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　　○設備あり　：1

○設備なし　：2

②主駆動源　　○電　力　　：1
　　○空　気　　：2
　　○その他（具体的にご記入下さい）　　：3

③停電時操作性　○自動閉止（電力喪失時に自動閉止するもの）：1
　　○操作可能　　：2
　　○操作不能　　：3

ス．移送設備(設備有無、停電時操作性)

緊急時に内容物を他のタンクに移送するための設備（様式は問いません）の有無、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②停電時操作性　○操作可能　：1
　　○操作不能　：2

セ．蒸発・拡散防止設備(設備有無、設備種類、停電時操作性)

漏洩時に毒性を除害(または拡散を防止)するための設備の有無、種類、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②設備種類　　○吸引除害　　：1
　　○散水希釈　　：2
　　○その他（具体的にご記入下さい）　　：3

③停電時操作性　○操作可能　：1
　　○操作不能　：2

ソ．設置場所

設置場所について次の中から該当する番号を記入してください。

○屋　外　：1
○屋　内　：2

タ．（任意入力）緯度・経度

施設の位置について、以下の方法に従ってご入力下さい。入力が困難な場合は、空欄でも構いません。

・Google maps（https://www.google.co.jp/maps/）にアクセス
・設備の位置にマウスカーソルを合わせて右クリックすると、その場所の緯度経

度が表示されるので、数字を左クリック

・「クリップボードにコピーしました」の表示が現れるので、エクセルにそのまま貼り付け

(4) プラント(様式 4)

対象施設：

①～④に示す施設で、第 4 類危険物・可燃性ガス・表 1 に該当する毒性物質のいずれかの取扱があるもの。

①危険物製造所および一般取扱所

②高圧ガス製造設備

③高危混在施設（①と②が混在する施設）

④発電設備（自家発電設備を除く）

表 1（再掲） 評価対象とする毒性物質

石油コンビナート等災害防止法で指定された毒物･劇物	毒物	四アルキル鉛、シアン化水素、フッ化水素
	劇物	アクリロニトリル、アクロレイン、アセトンシアンヒドリン、液体アンモニア、エチレンクロルヒドリン、塩素、クロルスルホン酸、硅フッ化水素酸、臭素、発煙硝酸、発煙硫酸
その他の毒性物質		硫化水素、硫黄

ア. 地図上の識別番号

地図に記入した識別番号（1, 2, 3, ‥‥の通番）をご記入下さい。

イ. 固有の施設記号

事業所で固有の施設記号(例えば T-001 など)があれば記入してください。

ウ. 稼働状況

施設の稼働状況について該当する番号をご記入下さい。なお、本様式は休止中の施設についても記入して下さい(貯蔵物質等は許可申請時のものとして下さい)。また、建設中の施設についても可能な範囲で記入して下さい。

○稼働中 ：1

○休止中 ：2

○建設中 ：3

○その他（具体的にご記入下さい） ：4

エ. 施設･装置名

プラントの名称を記入してください(例：常圧蒸留装置、水添脱硫装置、発電設備)。なお、複数の機器からなる装置全体の場合には、装置中の代表的な部分について回答をお願いします。

オ. 施設区分

施設の区分について該当する番号を記入してください。

○危険物製造所又は一般取扱所　：1
○高圧ガス製造設備　：2
○高危混在施設　：3
○発電設備（自家発電設備を除く）：4

カ．反応暴走等のおそれのある設備の有無

コンビナート等保安規則で定める特殊反応設備や化学反応・重合反応を伴う設備など、反応暴走等のおそれがある設備の有無について該当する番号を記入してください。

なお、特殊反応設備とは、高圧ガス設備のうち、反応器又はこれに類する設備であって著しい発熱反応又は副次的に発生する二次反応により爆発等の災害が発生する可能性が大きいものとして経済産業大臣が定めるもの。

反応暴走等のおそれがある設備　○設備あり　：1
○設備なし　：2

キ．設置年

設置許可を受けた年(西暦)を記入してください。正確にわからない場合には年代程度でお示ししていただいても構いません。

ク．取扱危険物

代表的な危険物の塔槽類（取扱危険物の滞留量が最大の塔槽類）について、以下の内容を記入してください。代表的な塔槽類のバウンダリは、緊急時に遮断弁などによりブロック化できる範囲と定義します(以下同様)。

① 物質名
② 類別（消防法上の類別、以下から番号を選び記入して下さい。）
　○第４類・第１石油類　：1
　○第４類・第２石油類　：2
　○第４類・第３石油類　：3
　○第４類・第４石油類　：4
　○第４類・特殊引火物　：5
　○第４類・アルコール類　：6
　○第４類・動植物油類　：7
③ 内容物の実液比重（内容物を液体で取り扱っている場合のみご記入下さい。幅がある場合、最小値及び最大値をご記入下さい)。
④ 最大滞留量：代表的な塔槽類の滞留量[kl]
⑤ 最大液面高さ[m]（内容物を液体で取り扱っている場合のみご記入下さい）
⑥ 処理温度　：代表的な塔槽類の処理温度[℃]
⑦ 処理圧力　：代表的な塔槽類の処理圧力[ゲージ圧：MPa]
⑧ 接続配管(最大配管の呼び径、フランジボルト数)

：ユニットに接続する配管で直径が最大のものの呼び径とフランジボルト数（ユニット直近のフランジ１箇所について）をご記入下さい。

※呼び径については、単位はA表示とB表示どちらか一つを選択して下さい（前回調査時の回答がどちらか不明な場合はA表示欄に記載してありますので、必要に応じて適宜修正ください）。フランジボルト数が不明の場合は、フランジ規格（JIS5k、JIS10k、JPIｸﾗｽ150等）をご記入下さい。また、溶接配管の場合は「溶接」とご記入下さい（以下同様）。

⑨ 状態　　：液体:1　気体:2

⑩ 毒劇物：表1の毒性物質についてご記入下さい。○該当：1　○非該当：2

⑪ 禁水性：表2の禁水性物質についてご記入下さい。　　○該当：1　○非該当：2

⑫ 水溶性：水溶性物質についてご記入下さい（例:表3)。○該当：1　○非該当：2

※水溶性物質についてはp.3～4に説明があります。

⑬ 地盤の液状化対策：

○対策あり：1

○対策なし：2

○調査の結果、対策の必要なし：3

ケ．取扱可燃性ガス

代表的な可燃性ガスの塔槽類（取扱可燃性ガスの滞留量が最大の塔槽類、ただし、様式2で回答したものは除く）について、以下の内容を記入してください。

① 物質名

② 最大滞留量：代表的な塔槽類の滞留量[t]

③ 最大液面高さ[m]（内容物を液体で取り扱っている場合のみご記入下さい）

④ 処理温度　：代表的な塔槽類の処理温度[℃]

※処理温度に幅がある場合は、常用の最大値として下さい（以下同様）。

処理温度について、常温の場合は「常温」と記入して下さい（以下同様）。

⑤ 処理圧力　：代表的な塔槽類の処理圧力[ゲージ圧：MPa]

⑥ 接続配管(最大配管の呼び径、フランジボルト数)

：ユニットに接続する配管で直径が最大のものの呼び径とフランジボルト数（ユニット直近のフランジ１箇所について）をご記入下さい（前回調査時の回答がどちらか不明な場合はA表示欄に記載してありますので、必要に応じて適宜修正ください）。

⑦ 状態　　：液体:1　気体:2

⑧ 地盤の液状化対策：

○対策あり：1

○対策なし：2

○調査の結果、対策の必要なし：3

コ．取扱毒性物質

表 1 に該当する毒性物質（危険物に該当するものはケ．取扱危険物でご回答下さい）を取扱う代表的な塔槽類（取扱毒性物質の滞留量が最大のユニット、ただし、様式 2、様式 3 で回答したものは除く）について、以下の内容をご記入下さい。

① 物質名
② 最大滞留量：代表的な塔槽類の滞留量[t]
③ 最大液面高さ[m]（内容物を液体で取り扱っている場合のみご記入下さい）
④ 処理温度　：代表的な塔槽類の処理温度[℃]
⑤ 処理圧力　：代表的な塔槽類の処理圧力[ゲージ圧：MPa]
⑥ 濃度　：取扱毒性物質の濃度[液体の場合は重量%、気体の場合は体積%]
⑦ 接続配管(最大配管の呼び径、フランジボルト数)
：ユニットに接続する配管で直径が最大のものの呼び径とフランジボルト数（ユニット直近のフランジ 1 箇所について)をご記入下さい(呼び径について、前回調査時の回答がどちらか不明な場合は A 表示欄に記載してありますので、必要に応じて適宜修正ください)。
⑧ 状態　：液体:1　気体:2
⑨ 地盤の液状化対策：
○対策あり：1
○対策なし：2
○調査の結果、対策の必要なし：3

サ．設置場所

設置場所について次の中から該当する番号を記入してください。
○屋　外　：1
○屋　内　：2

シ．遮断設備（設備有無、主駆動源、停電時操作性）

遠隔による開閉操作が可能な受払弁または緊急遮断弁の有無、主駆動源、停電時(送電及び非常用を除く自家発電設備のいずれも停止したとき、以下同様）の操作性について、次の中から該当する番号をご記入下さい。

①設備有無　　○設備あり：1　　○設備なし：2

②主駆動源

遮断設備がある場合にのみご記入下さい。遮断設備がない場合は空欄のままにして下さい。

○電　力　：1
○空　気　：2
○その他（具体的にご記入下さい。）　：3

③停電時操作性

遮断設備がある場合にのみご記入下さい。遮断設備がない場合は空欄のままにし

て下さい。

○自動閉止（電力喪失時に自動閉止するもの）　：1

○操作可能　：2

○操作不能　：3

ス．移送設備（設備有無、停電時操作性）

緊急時に内容物を他のタンク等に移送するための設備の有無、停電時操作性について、次の中から該当する番号をご記入下さい。

①設備有無　　○設備あり：1　　○設備なし：2

②停電時操作性

移送設備がある場合にのみご記入下さい。移送設備がない場合は空欄のままにして下さい。

○操作可能　：1　　○操作不能　：2

セ．蒸発・拡散防止設備（設備有無、設備種類、停電時操作性）

可燃性ガスや毒性ガスの漏洩時に蒸発・拡散を防止するための設備の有無、種類、停電時操作性について、次の中から該当する番号をご記入下さい。

①設備有無　　○設備あり：1　　○設備なし：2

②設備種類

蒸発・拡散防止設備がある場合にのみご記入下さい。設備がない場合は空欄のままにして下さい。

○吸引除害　：1

○散水希釈　：2

○その他（具体的にご記入下さい）　：3

③停電時操作性

蒸発・拡散防止設備がある場合にのみご記入下さい。設備がない場合は空欄のままにして下さい。

○操作可能　：1　　○操作不能　：2

ソ．（任意入力）緯度・経度

施設の位置について、以下の方法に従ってご入力下さい。入力が困難な場合は、空欄でも構いません。

・Google maps（https://www.google.co.jp/maps/）にアクセス

・設備の位置にマウスカーソルを合わせて右クリックすると、その場所の緯度経度が表示されるので、数字を左クリック

・「クリップボードにコピーしました」の表示が現れるので、エクセルにそのまま貼り付け

(5)パイプライン（導配管）（様式 5）

対象施設：

事業所間を結ぶ配管（地上、地下及びその他（カルバート等））あるいは事業所内でも、離れた桟橋とタンクを結ぶ配管など、敷地外に出る配管（地上、地下及びその他（カルバート等））で、以下に示すもの。

① 危険物配管（石油（第 1～第 4 石油類））

②高圧ガス導管（可燃性）

※導配管は送出側の事業所においてご記入下さい。

ア. 地図上の識別番号

地図に記入した識別番号（1,2,3,‥‥の通番）をご記入下さい。

イ. 固有の施設記号

事業所で固有の施設記号(例えば T-001 など)があれば記入してください。

ウ. 稼働状況

施設の稼働状況について該当する番号をご記入下さい。なお、本様式は休止中の施設についても記入して下さい(貯蔵物質等は許可申請時のものとして下さい)。また、建設中の施設についても可能な範囲で記入して下さい。

○稼働中 ：1

○休止中 ：2

○建設中 ：3

○その他（具体的にご記入下さい） ：4

エ. 受入側事業所名

受入側の事業所名をご記入下さい。

オ. 施設区分

施設の区分について該当する番号をご記入下さい。

■導配管の区分について

○危険物配管（石油（第 1～第 4 石油類）） ：1

○高圧ガス導管（可燃性） ：2

■設置場所について

○地上 ：1

○地下 ：2

○その他（具体的にご記入ください） ：3

カ. 取扱物質（物質名、類別（石油類）、比重（石油類）、種別）

取扱物質の名称をご記入下さい。名称は略称を避け、できるだけ一般名を用いて下

さい。また、危険物の場合は消防法上の類別について、該当する番号をご記入下さい。さらに、危険物については内容物の実液比重もご記入下さい（幅がある場合、最小値及び最大値をご記入下さい。前回調査時の回答は最小値欄に記載してありますので必要に応じて適宜修正ください）。

○第４類・第１石油類　　：1
○第４類・第２石油類　　：2
○第４類・第３石油類　　：3
○第４類・第４石油類　　：4

キ．配管仕様（総延長、呼び径、フランジボルト数）

導配管の総延長［m］（地下埋設部を含む）、呼び径（A 表示・B 表示）（管径が最大となる箇所（地上部）について）を記入して下さい。単位はどちらか一つを選択して下さい（前回調査時の回答がどちらか不明な場合は A 表示欄に記載してありますので、必要に応じて適宜修正ください）。また、フランジ部がある場合は、フランジボルト数の代表値（最頻値）を記入して下さい。溶接配管の場合は「溶接」とご記入下さい。

ク．取扱条件

導配管の取扱条件について以下の内容を記入して下さい。移送圧力は設計圧力ではなく、運転圧力とし、値に幅がある場合は常用の最大値として下さい。

①流量［m^3/h］
②移送圧力［ゲージ圧：MPaG］
③取扱温度［℃］　　※常温の場合、「常温」とご記入下さい。
④取扱状態：○液体:1　　○気体:2

ケ．地盤の液状化対策

地盤の液状化対策の有無について、該当する番号を記入して下さい。

○対策あり：1　　○一部区間のみ対策あり：2
○対策していないが、対策の予定あり：3
○対策しておらず、今後も対策の予定なし：4

コ．耐震設計用重要度分類

当該パイプラインの耐震設計について、高圧ガス設備等の耐震性能を定める告示（平成 30 年経済産業省告示第 220 号）に基づいて設定している重要度分類を記入してください。（前回調査時の回答は当時の法令についての回答を記載してありますので必要に応じて適宜修正ください）

カ.遮断設備(設備有無、主駆動源、停電時操作性)

遠隔による開閉操作が可能な受払弁または緊急遮断弁の有無、主駆動源、停電時(送電及び非常用を除く自家発電設備のいずれも停止したとき、以下同様)の操作性について、

次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　　○設備あり　：1
　　○設備なし　：2

②主駆動源　　○電　力　　：1
　　○空　気　　：2
　　○その他　　：3

③停電時操作性　○自動閉止（電力喪失時に自動閉止するもの）：1
　　○操作可能　　：2
　　○操作不能　　：3

キ.固定泡消火設備(設備有無、停電時操作性)

設備有無、停電時操作性について、次の中から該当する番号を記入してください。

①設備有無　　○設備あり　　：1
　　○設備なし　　：2

②停電時操作性　○操作可能　　：1
　　○操作不能　　：2

(6)陸上入出荷施設(様式６)

対象施設：
①高圧ガスローリー
②危険物ローリー
③毒劇物ローリー
④高圧ガス取扱場所（①を除く）
⑤危険物貯蔵・取扱場所（②を除く）

ア.地図上の識別番号

地図に記入した識別番号（1,2,3,‥‥の通番）をご記入下さい。

イ.固有の施設記号

事業所で固有の施設記号(例えば T-001 など)があれば記入してください。
なお、取扱所については、まとまった置き場単位でのご記入をお願いします。

ウ.高圧ガスローリー

高圧ガスローリーについて、以下の内容を記入してください。
①物質名
②レーン数
③平均入出数：年間平均の出入数[回／年]

エ.危険物ローリー

危険物ローリー充填所について、以下の内容を記入してください。
①物質名
②レーン数
③平均入出数：年間平均の出入数[回／年]

オ.毒劇物ローリー

毒劇物ローリーについて、以下の内容を記入してください。
①物質名
②レーン数
③平均入出数：年間平均の出入数[回／年]

カ.高圧ガス取扱場所

高圧ガス容器置場について、以下の内容を記入してください。
ここでは、入出荷に係るもののみが対象となります。また、容器については、単体ではなく、まとまった容器置場という概念でご回答ください。
①取り扱いガスの物質名（複数ある場合には併記してください）

②容器置場の規模　：容器置場全体の面積[m²]

キ．危険物貯蔵・取扱場所（エを除く）

危険物容器の取扱い等について、以下の内容を記入してください。

①貯蔵・取扱い危険物の物質名（複数ある場合には併記してください）

②貯蔵・取扱い場所の種別

貯蔵・取扱い場所について次の中から該当する番号を記入してください。ただし、津波の影響を受けにくい、４面が床等に囲まれた建築物を除く。

○一般取扱所（ドラム充填所）　：1

○屋外貯蔵所　　：2

③容器置場の規模　：容器置場全体の面積[m²]

④架台の有無　○有り：1

○無し：2

ク.毒劇物取扱場所

毒劇物容器について、以下の内容を記入してください。

容器については、単体ではなく、まとまった容器置場という概念でご回答ください。

①取り扱い毒劇物の物質名（複数ある場合には併記してください）

②取扱場所の種別

取扱場所について次の中から該当する番号を記入してください。

○ドラム充てん所　：1

○その他　　：2

③容器置場の規模　：容器置場全体の面積[m²]

サ．（任意入力）緯度・経度

施設の位置について、以下の方法に従ってご入力下さい。入力が困難な場合は、空欄でも構いません。

・Google maps（https://www.google.co.jp/maps/）にアクセス

・設備の位置にマウスカーソルを合わせて右クリックすると、その場所の緯度経度が表示されるので、数字を左クリック

・「クリップボードにコピーしました」の表示が現れるので、エクセルにそのまま貼り付け

(7)海上入出荷施設（タンカー桟橋）（様式７）

対象施設：
① 石油タンカー桟橋（第 1～第 4 石油類）
② ＬＰＧタンカー桟橋
③ ＬＮＧタンカー桟橋

ア. 地図上の識別番号

地図に記入した識別番号（1, 2, 3, ‥‥の通番）をご記入下さい。

イ. 固有の施設記号

事業所で固有の施設記号（例えば T-001 など）があればご記入下さい。

ウ. 稼働状況

施設の稼働状況について該当する番号をご記入下さい。なお、本様式は休止中の施設についても記入して下さい（貯蔵物質等は許可申請時のものとして下さい）。また、建設中の施設についても可能な範囲で記入して下さい。

○稼働中　：1
○休止中　：2
○建設中　：3
○その他（具体的にご記入下さい）　：4

エ. 施設区分

施設の区分について該当する番号をご記入下さい。

○入荷施設　：1
○出荷施設　：2
○入出荷施設　：3

オ. 取扱物質（物質名、類別、比重（石油類）、種別）

取扱物質の名称をご記入下さい。名称は略称を避け、できるだけ一般名を用いて下さい。また、類別について、該当する番号をご記入下さい。さらに、危険物については内容物の実液比重もご記入下さい（幅がある場合、最小値及び最大値をご記入下さい）。

○第 1 石油類　：1
○第 2 石油類　：2
○第 3 石油類　：3
○第 4 石油類　：4
○ＬＰＧ　：5

○ＬＮＧ　　：6

カ．年間の利用状況

年間の入出荷回数（最近1年間の実績）と1回あたりの入出荷に要する平均時間をご記入下さい。

キ．配管仕様（呼び径、フランジボルト数、敷設場所）

受入・払出配管で直径が最大となる箇所（地上部）について、呼び径（A表示・B表示）を記入して下さい。単位はどちらか一つを選択して下さい。また、フランジ部がある場合は、フランジボルト数の代表値（最頻値）を記入して下さい。溶接配管の場合は「溶接」とご記入下さい。敷設場所は、下記の該当する番号をご記入下さい。

○地上　　：1
○地中／海底　　：2
○地上及び地中／海底　：3

ク．移送ポンプ

移送ポンプについて以下の内容を記入して下さい。移送圧力は設計圧力ではなく、運転圧力とし、値に幅がある場合は常用の最大値として下さい。

①流量［m^3/h］
②移送圧力［ゲージ圧：MPaG］
③取扱温度[℃]　※常温の場合、「常温」とご記入下さい。
④取扱状態：○液体:1　○気体:2

ケ．地盤の液状化対策

地盤の液状化対策の有無について、該当する番号を記入して下さい。

○対策あり：1　○対策していないが、対策の予定あり：2
○対策しておらず、今後も対策の予定なし：3

コ．オイルフェンス

タンカー着桟時のオイルフェンスの展張について、該当する番号をご記入下さい。

○入出荷時は常に展張　　：1
○漏洩発生時に展張　　：2
○その他（具体的にご記入下さい）　：3

サ．遮断設備（設備有無、主駆動源、停電時操作性）

遠隔による開閉操作が可能な受払弁または緊急遮断弁の有無、主駆動源、停電時（送電及び非常用を除く自家発電設備のいずれも停止したとき、以下同様）の操作性について、次の中から該当する番号をご記入下さい。

①設備有無　　○設備あり：1　　○設備なし：2

②主駆動源

遮断設備がある場合にのみご記入下さい。遮断設備がない場合は空欄のままにして下さい。

○電　力　　：1

○空　気　　：2

○その他（具体的にご記入下さい。）　：3

③停電時操作性

遮断設備がある場合にのみご記入下さい。遮断設備がない場合は空欄のままにして下さい。

○自動閉止（電力喪失時に自動閉止するもの）：1

○操作可能　　：2

○操作不能　　：3

シ.（任意入力）緯度・経度

施設の位置について、以下の方法に従ってご入力下さい。入力が困難な場合は、空欄でも構いません。

・Google maps（https://www.google.co.jp/maps/）にアクセス

・設備の位置にマウスカーソルを合わせて右クリックすると、その場所の緯度経度が表示されるので、数字を左クリック

・「クリップボードにコピーしました」の表示が現れるので、エクセルにそのまま貼り付け

(8)大規模災害及び防災対策全般に関する調査(様式８)

危険物タンク及び高圧ガスタンクについて、大規模災害（石油類が防油堤外さらには事業所外に拡大したり、石油類や可燃性ガスの火災・爆発が隣接施設を損傷してさらに拡大していくような状況を指します。）対応時の安全対策に関する以下の質問事項にご回答下さい。

なお、様式８は個々のタンクに関する情報を記載するものではありません。

（１） 危険物タンクヤード

ア. 油の海上流出を防止するための設備について

危険物タンクヤードにおいて油流出が生じた場合を想定し、海上への流出を防止するために設置されている設備について、以下の該当するものを選択して下さい（複数回答可)。

○防油堤 ：1
○オイルフェンス ：2
○ガードベースン ：3
○仕切堤 ：4
○流出油防止堤 ：5
○その他（具体的にご記入下さい） ：6

イ. 油の海上流出時の緊急対応について

危険物タンクヤードからの油が海上へ流出した際の緊急時対応に関して、貴事業所が取り組むものについて、以下の該当するものから選択して下さい（複数回答可)。

○流出油発生源の封鎖・制御 ：1
（破口部の閉鎖、他タンク・船への移送、ガードベースン開閉、ガス検知等）
○流出油の海上拡散防止 ：2
（オイルフェンス展張等）
○流出油の海上での除去 ：3
（油回収船による機械的回収、抜き取り、油処理剤の使用、清掃活動等）
○その他（具体的にご記入下さい） ：4

ウ. 流出油から火災が発生し、防油堤外への延焼拡大を防止するための設備について

危険物タンクヤードにおいて、防油堤が地震等により破壊され、大量流出した油に引火し、火災が防油堤外、さらにはコンビナート外へ拡大した場合を想定し、流出油の陸上方向への拡大、延焼の拡大を阻止するための設備について、以下の該当するものから選択して下さい（複数回答可)。

○防止堤 ：1
○防火シャッター ：2
○大型消火器・消防ポンプ ：3

○水幕設備　：4
○その他（具体的にご記入下さい）　：5

エ．火災の延焼拡大時の緊急対応について

危険物タンクヤードにおいて、防油堤が地震等により破壊され、大量流出した油に引火し、火災が防油堤外、さらにはコンビナート外へ拡大した場合を想定した際の緊急時対応に関して、貴事業所が取り組むものについて、以下の該当するものから選択して下さい（複数回答可）。

○流出油・火災の発生源の封鎖・制御　：1
（施設の閉鎖、燃料の他タンク・船への移送、ガス検知等）
○流出油の陸上での除去・回収　：2
○消火剤等の散布　：3
○設備の冷却　：4
○その他（具体的にご記入下さい）　：5

（２）　高圧ガスタンクヤード

オ．BLEVE（※）による災害時の安全対策について

高圧ガスタンクヤード内の個々のタンクが BLEVE により連鎖的に爆発・炎上した場合、貴事業所外の周辺環境及びコンビナート外の周辺住民に対する安全対策があれば、ご記入下さい（自由形式）。

（※）BLEVE（Boiling Liquid Expanding Vapor Explosion）とは、沸点以上の温度で貯蔵している加圧液化ガスの貯槽や容器が何らかの原因により破損し、大気圧まで減圧することにより急激に気化する爆発的蒸発現象です。典型的には、火災時の熱により容器等が破損して BLEVE を引き起こします。BLEVE の発生は内容物が可燃性のものに限りませんが、可燃性の場合には着火してファイヤーボールと呼ばれる巨大な火球を形成する場合があります。

（３）　その他

カ．ネットワークセキュリティ対策について

サイバー攻撃に対するネットワークセキュリティ対策について、貴事業所での取り組みがございましたら、ご記入下さい（自由形式）。

キ．蓄電設備に関する安全対策について

貴事業所内の蓄電設備について、火災の着火源となるリスクを想定した取り組みがございましたら、ご記入下さい（自由形式）。

ク．今後の施設の設置・更新・廃止計画について

上記の様式１～様式７にてご回答頂いた各種設備について、今後３年間程度を目安に、新設・更新・廃止の計画がありましたら、公開可能な範囲でご記入下さい（自由形式）。

ケ．防災対策の在り方、進め方について

その他、防災対策の在り方、進め方等についてのご意見、ご要望がございましたら、ご記入下さい（自由形式）。

以上よろしくお願いいたします。